

神奈川という地名

前回、横浜という地名の由来について説明しました。その中に神奈川という地名も出てきて、現在の京浜急行電鉄の神奈川駅と仲木戸駅の間あたりの場所だと書きました。すでに江戸時代の東海道の宿場として神奈川宿がありましたが、「川」とつくのですから、その名前の川があると考えるのが普通です。しかし、地図を見ても、現地を歩いても「神奈川」は見つかりません。

もう 30 年ほど前になりますが、神奈川県の地理の教員が集まって、「かながわの川」という本を神奈川新聞社から出しました。その中で「神奈川」については、このように書かれています。

地元の郷土史家・高田善之氏の話では、「この川はふだんは水が枯れていてあまり流れておらず、水源も定かすいげんでなかったので、上流がない川という意味から「上無川（かみなしがわ）と呼ばれていました。これがさらに「かながわ」から「かながわ」になり、「神奈川」に落ち着いたのです。」

「かながわの川」（神奈川新聞社、1989）

現在の神奈川は横の写真のとおり、道路になっています。関東大震災後の区画整理くかくせいりで埋め立てられた記録が残っています。場所としては、横浜市立神奈川小学校の敷地の東側を流れていたようです。

横浜も神奈川も、今はもう存在しない地形をもとにつけられた地名であることが共通点ですね。このように地名には、その場所の歴史が埋め込まれていることが多いので、調べる価値があるのです。

ついでですので、神奈川県内の東海道線の駅名の由来を昔調べたことがあるので、紹介します。



何の変移もない通り。神奈川のなを生きんだかつての川筋である

- 川崎…多摩川につくった砂の岬（三角州）
- 横浜…すでに説明しました
- 戸塚…富塚（とみづか）という名前の古墳（現在は八幡宮がある）
- 大船…粟船（あわふね）山という現在常楽寺じょうらくじという寺のある場所
- 藤沢…不明（現在の遊行寺付近の沢に由来か？）
- 辻堂…集落内の四つ角にあった堂
- 茅ヶ崎…茅（かや）の茂った砂浜の岬
- 平塚…なだらかな古墳
- 大磯…照ヶ崎海岸にあった岩礁がんしょう
- 二宮…相模二宮の川匂（かわわ）神社
- 国府津…相模国府の港（諸説あり）
- 鴨宮…賀茂（かも）神社
- 小田原…不明（古代地名の小由留木（こゆるぎ）の読み間違えか？）
- 早川…箱根から流れる急流
- 根府川…付近の開拓者の根府川太郎
- 真鶴…空から見た町の形が鶴に似ている
- 湯河原…温泉の水が流れる川